

今週の為替相場見通し(2020年11月2日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		104.03 ~ 105.05	104.66	103.00 ~ 106.00
ユーロ	(ドル)		1.1640 ~ 1.1859	1.1648	1.1550 ~ 1.1750
(1ユーロ=)	(円)		121.64 ~ 124.19	121.92	120.00 ~ 123.50
英ポンド	(ドル)		1.2882 ~ 1.3079	1.2949	1.2800 ~ 1.3000
(1英ポンド=)	(円)	*	134.41 ~ 137.07	135.52	134.00 ~ 136.50
豪ドル	(ドル)		0.7003 ~ 0.7146	0.7029	0.6900 ~ 0.7200
(1豪ドル=)	(円)	*	73.14 ~ 74.95	73.56	71.00 ~ 75.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1)今週の予想レンジ: 103.00 ~ 106.00 円

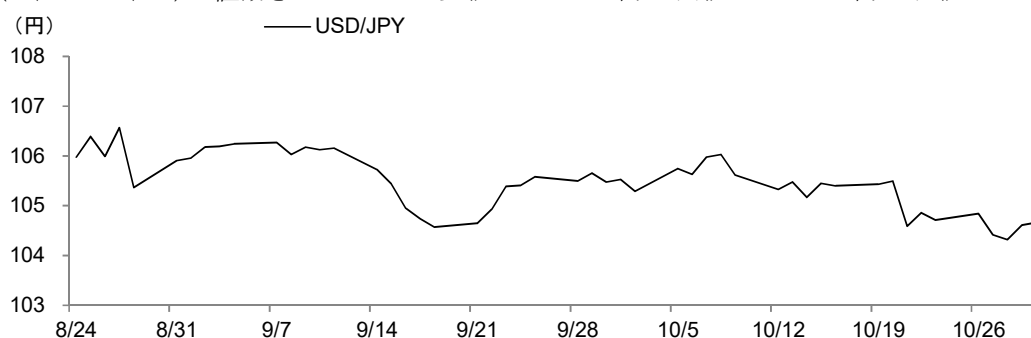
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は下落するも、週後半に強含む展開。週初26日、104円台後半でオープンしたドル/円はリスクオフのドル買いが強まる中、一時週高値となる105.05円をつけるも上値は限定的。米9月新築住宅販売件数が市場予想を下回ったことや、NYダウ平均株価の大幅な下落を背景に104円台後半に押し戻された。翌27日には前日の米株の大幅安を受けて日本株が軟調に推移する中、リスクオフの円買いが優勢になると、米金利低下やNYダウ平均先物がマイナス圏に沈む動きに、軟調な推移が続いた。28日にかけても、欧州を中心とした新型コロナウイルス感染第2波が意識される中、リスクオフの円買いが優勢で、ドル/円は104円台前半まで下落したが、その後は買い戻しも散見され、小幅に値を戻す展開。翌29日はユーロ/円やポンド/円の下落に伴い、ドル/円も一時週安値となる104.03円まで連れ安となったが、ECB政策理事会後、ラガルドECB総裁が12月に追加緩和を示唆したことでユーロ売りが加速すると、ドル/円は104円台後半まで急伸した。30日は米大統領選をめぐる不透明感が強まる中で104円台前半まで下落する局面もみられたが、欧州通貨が対ドルで軟調な推移となる中で104円台半ばまで反発。終盤にかけてはリスクオフのドル買いが強まる中で104円台後半を付け越週している。

今週のドル/円相場は特に大統領選のヘッドラインに浮沈する展開を想定している。目下最大の関心事である米大統領選は3日。開票結果は東京時間の4日未明から順次発表され、同日の午後には大勢が判明すると見られる。最新の世論調査の結果では民主党のバイデン候補が優勢との見方が強く、金融市場もバイデン氏勝利を織り込んでいる状況。しかし、前回大番狂わせを演じたトランプ氏は1日・2日と激戦州での選挙集会を5回予定しており、猛追を見せているとの一部報道もみられる。また、開票結果が出揃ったとしても法廷闘争に発展する可能性も相応にあるように思う。当初、バイデン氏なら税負担増に伴う米株安などの論調が見られたが、コロナ対策への期待もありそのような値動きには至っていない。トランプ氏も従来から資産効果を高める施策を打ち出している。どちらに転んでも、短期的にはリスク資産が大きく下落するなどの動きにはならないと考えている。ドル/円に関しては、ヘッドラインが出てきても株価や債券ほど感応度は高くないのではないかと。ヘッドラインリスクはあるが、現状の水準での浮沈が基本路線だと考えている。

(3)先週までの相場の推移

先週(10/26~10/30)の値動き: 安値 104.03 円 高値 105.05 円 終値 104.66 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 原田 和忠

(1) 今週の予想レンジ: 1.1550 ~ 1.1750 120.00 ~ 123.50 円

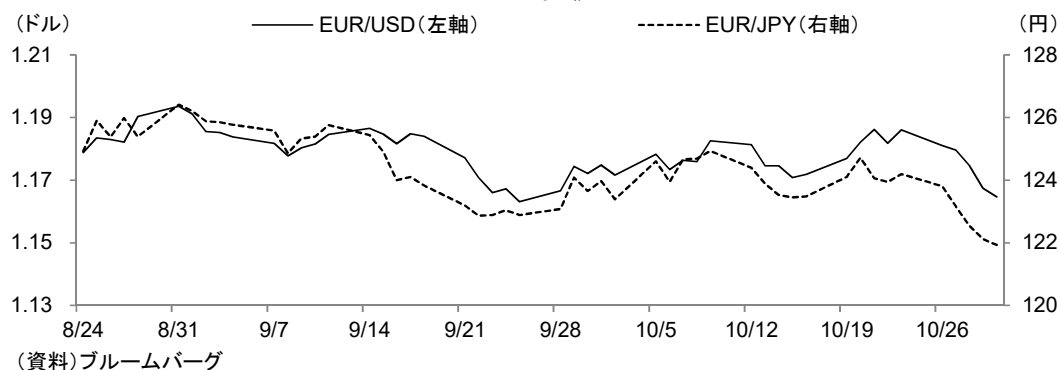
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初26日、1.18台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる1.1859をつけた後、欧州株価の軟調推移や独9月IFO企業景況指数の悪化を背景にユーロ売りが強まると、1.18近辺まで下落した。27日は、リスクオフのドル買いが一巡すると、ユーロ/ドルは1.18台前半まで強含んだが、欧州での感染第2波への懸念が燃る中、1.17台後半まで売り進められた。28日にかけても、ユーロ売り優勢地合いが継続する中、欧州株価の軟調推移も重しとなり、ユーロ/ドルは1.17台前半まで下落。しかし、この水準では押し目買いも入り、後半にかけては1.17台後半まで買い戻された。29日には、ECB政策理事会において政策金利の据え置きが発表されたが、上述のラガルドECB総裁の発言を受けてユーロ売りが加速し、ユーロ/ドルは1.1655まで下落した。30日は、ドイツ、フランスのほか、スペインでも一部ロックダウンが実施され、新型コロナウイルス感染拡大が再び意識されたことで、ドル買い優勢の中ユーロ/ドルは下落し一時週安値の1.1640をつけ、1.16台半ばで越週した。ユーロ/円は週初124円前半でオープン。米追加経済対策への期待感後退や、新型コロナウイルスの感染拡大からリスクオフとなり、ドル/円が下落したことでユーロ/円じりりと下落した。29日には122円割れを示現。その後は小動きとなり、121円台後半で越週した。

今週のユーロは上値の重い動きを予想する下落を予想。29日のECBは政策変更なし。ただし、総じてラガルド総裁が追加緩和を示唆したようにハト派的な結果となった。声明文冒頭で12月に行動を起こす準備が出来ており、現在は経済がどのくらい悪化しているのか精査している段階とした。会見では、12月会合で行動することにほぼ疑いないと明確に述べた。その上で、新たな経済見通しを立て政策を再調整することを強調した。追加緩和についてはPEPPの拡大にとどまらない可能性を示唆し、今後のECBメンバーの発言で、どういった政策がとられるのかが今後の注目点となろう。またドイツやフランスでは再びロックダウン措置が発表され、先行きの不透明さが強まっている。イギリスにおいても1日当たりの感染者数が96万人といわれる中、全国的なロックダウンの再導入の声が強まっている。ユーロ圏の景況感徐徐に持ち直していただけない、新型コロナウイルスの感染再拡大をきっかけとして、ユーロは軟調推移を強いられそうだ。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/26~10/30)の値動き: (対ドル) 安値 1.1640 高値 1.1859 終値 1.1648
(対円) 安値 121.64 高値 124.19 終値 121.92



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2800 ~ 1.3000 134.00 ~ 136.50 円

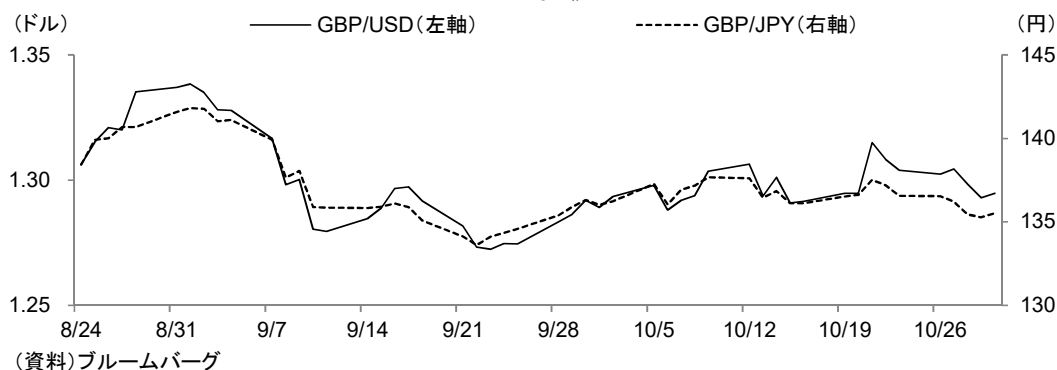
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドル、対円ではじわじわと下押しした一方、対ユーロではほぼ一貫した堅調推移を続けた。ポンド固有の要因では、EU側のバルニエ首席交渉官が、将来関係交渉のためのロンドン滞在を(当初予定された25日までから)28日まで延長。28日になって「関係者」からの発言として、交渉に進展が見られ、「11月初めにも妥結の可能性」との観測が広がった。その後、週引けに至るまで具体的な進展は確認されないものの、通商交渉妥結に向けた楽観の広がりは、ユーロ圏主要国の新型コロナ禍拡大や、後述欧州中銀追加金融緩和観測と併せ、対ユーロでのポンド堅調を演出した要因と考えられた。一方で、対ドル、対円でのポンド下押しは、金融資産市場全般におけるリスク回避姿勢の強まりを反映した円高、ドル高の結果と言えた。それは週前半には主に円高進行として現れ、29日の欧州中銀理事会以降は、ユーロ安の裏返しとしてのドル高という形で鮮明に表れた。欧州中銀理事会は、ラガルド総裁の記者会見と併せ、「12月追加緩和の可能性を明確に示唆した」と読まれ、ユーロ売りを加速させた。リスク回避の背景には、米株を筆頭とした株安、原油安などがあり、その背景には、米追加財政出動策(新型コロナ対策)に対する失望があった。これまで、米大統領選(投票日)前の同策とりまとめが期待されてきたが、この期に及んでその期待が事実上潰えたことが、株安や(原油、貴金属など)各種資産安につながった。

今週の英ポンド相場は、方向感を欠いた膠着を予想。注目材料は米大統領選と英EUの将来関係交渉となろうが、いずれも、今週中に明確な結論を得られる可能性は高いものと思込む。不透明感の継続はリスク回避要因と読まれ、ポンドにとっては重石となるのではないかと。米大統領選の投票日は3日(火)だが、既に相当量の票が郵便で投じられている。州によってはその開票に数日以上要する可能性も報じられており、開票結果が今週中に発表されない可能性も十分に考えられる。また、結果が出たとしても、僅差であった場合、票の集計し直しから、場合によっては最高裁判断以降まで結果が確定しない可能性まで考えられる。逆に、激戦州と言われる州で、例えばフロリダ州の結果などが早々に確定し、それがバイデン前副大統領の明確な勝利であった場合など、早々に雌雄を決する可能性もなくはないだろう。バイデン大統領誕生の暁には、EUとの関係回復が優先され、パリ協定やイラン核合意などへの復帰が目指されると見込まれる一方、米英自由貿易交渉などは後回しにされる可能性が警戒されている。既に概ね織り込みは進んだものと思われるものの、それでも、バイデン大統領誕生はポンドにとっては売り材料と読まれよう。英EUの将来関係交渉については、上述の通り、早やければ11月初めに合意に至る可能性も観測されたが、過去3年半に亘る同交渉の経緯を振り返れば、楽観は禁物と思われる。敢えて楽観的な見通しが喧伝された後には、必ず失望が待っていたからだ。唯一の例外と言えるのが、昨年同時期にジョンソン首相がEUと結んだ離脱合意だったが、ご案内の通り、その後「国内市場法」なる国際法違反の法律を作って、その合意を反故にしなければならなかった。言い方を変えれば、1年前に結ばれた合意も、結ばれた瞬間から実現不可能な瑕疵があったということだ。今回も合意「のようなもの」がでっち上げられる可能性は考えられるものの、通関などにおける具体的な手続きは、実際に試行錯誤しながら継続的に改善が図られる可能性が高く、移行期間終了・年明け以降、現場での混乱は避けられないものと思込む。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(10/26~10/30)の値動き: (対ドル) 安値 1.2882 高値 1.3079 終値 1.2949
(対円) 安値 134.41 高値 137.07 終値 135.52



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 川口 志保

(1) 今週の予想レンジ: 0.6900 ~ 0.7200 71.00 ~ 75.50 円

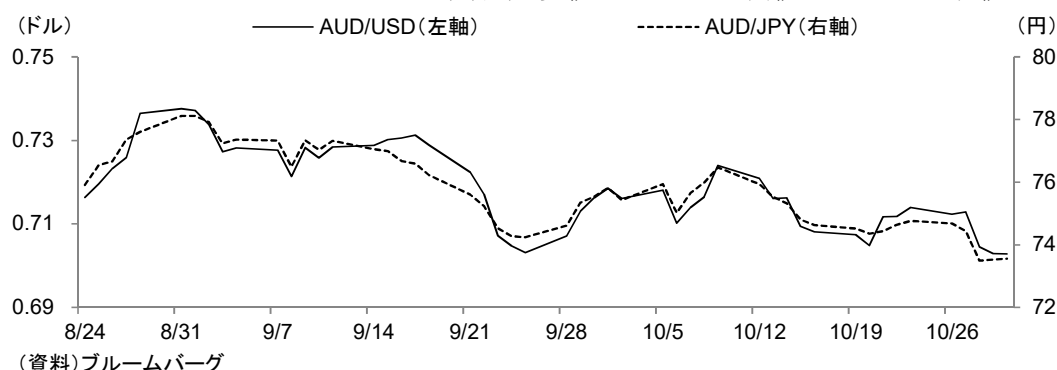
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドルは週前半、0.71台前半を中心に推移したものの、週後半の月末に向けては0.70近辺まで下落した。26日の豪ドルは0.71台前半のレンジで推移。特段豪ドルは反応しなかったものの、日中、VIC州の感染者数減少でアンドリュースVIC州知事が移動制限等のロックダウン規制措置を28日から緩和する事を発表。NY時間では米国での新型コロナ新規感染者数の増加等が嫌気され株価指数先物をはじめ、米株等が大きく下げたものの、豪ドルはレンジ内に留まった。27日はRBAデベール副総裁が来週RBAがQEを発表する可能性についてはコメントできないとしたものの「豪経済は3Qでプラス成長となった模様。成長を再開させた」と発言。マーケットでは特段反応は見られず豪ドルは0.7130近辺での振幅に留まった。28日発表になった豪3Q CPIは前年比・前期比共に予想を僅かに上回った。数字直後は特段大きな反応はなく0.71台前半にそのまま留まったものの、ロンドン入りにかけてはじり高の展開。ロンドン早朝に0.7160手前まで上昇したものの、それを最後にロンドン・NY時間を通し一気にリスク回避ムード一色となり0.7040近辺まで下落。AUD/JPYは74.65近辺から73.40近辺まで下落。米大統領選もさながら、米大統領選前に追加経済政策の合意が困難とみられている事が市場の警戒感を強め、また米国やヨーロッパにおいて新型コロナウイルス感染が拡大する中、欧州各主要都市の封鎖実施が発表された事や、米国の一部で移動制限が実施されている事でリスク回避ムードが強まり、ドル買いの裏で豪ドルは大きく下落した。29日の豪ドルは来週に豪RBA理事会や豪メルボルンカップを控えて早めに手当をする実需勢が行き交う中、シドニー時間は緩やかに0.7075近辺まで上昇した。しかし、ロンドン・NY時間を通しては0.70丁度近辺まで下落。欧州や米国で第3波感染拡大が起こる中、来週に米大統領選を控え、先行き不透明感からリスクオフムードが強まった。NY時間に発表された米3Q GDP(前期比)、米3Q個人消費は共に予想を上回り、発表後は米金利が上昇。ドルの買い戻しとなった。30日、月末は調整が主なフローとなり0.7012-0.7072のレンジで推移。米株は通信大手各社の決算が期待外れとなり、ハイテク株を中心に下落。また、北半球でのCOVID-19の新規感染も拡大していることから欧米でロックダウンが再実施され、リスク回避ムードが高まった。

11月3日に豪RBA理事会並びに米大統領選を控えている。RBAは過去最低水準への利下げ、3年債利回り目標の利下げ、更にYCC下での債券購入、QEプログラムのアナウンスが広く予想されている。市場は織り込み済みではあるが、発表後の値動きに注意したい。また、今後の当局の経済展望に注目が集まる。米大統領選は今回郵便投票が多く、当日中に集計が終わらないと見込まれており、3日以降も豪ドルには変動リスクが残るとみる。

(3) 先週までの相場の推移

先週(10/26~10/30)の値動き: (対ドル) 安値 0.7003 高値 0.7146 終値 0.7029
(対円) 安値 73.14 高値 74.95 終値 73.56



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。